

# トライアングル

2021年 秋号



コンチネンスケア

日本コンチネンス協会北海道支部 発行責任者…嶋宮 美野子

## コンチネンス協会からのお知らせ

コンチネンス協会北海道支部では、ZOOMを使用したWEBセミナーを開催しております。コンチネンス基礎講座では排便ケアをテーマに、基礎知識から具体的なケアを開催します。アセスメントに必要な基礎を学び、看護・介護実践に役立つ内容としております。コンチネンス教室も「解決！スキントラブル」とテーマがございます。

内容をご確認して興味を持って頂ければ、ぜひご参加ください！お待ちしております！！

### ◎コンチネンス基礎講座について

2021年12月4日(土) 14:00～16:00

テーマ：「お悩み解消 排便ケアのポイント解説」

参加費：4000円（2回目の受講は3500円）

申込締切：2021年11月14日(日)まで

### ◎コンチネンス教室について

2022年2月19日(土) 14:00～16:00

テーマ：「解決！スキントラブル」

参加費： 会員：無料 非会員：500円

詳細等、気になる点ございましたら、同封のチラシ、HP、メール等にてご連絡ください。



コンチネンスケアとは、排泄障害の予防・治療、排泄障害が治療できなかったとしても、生活上問題にならないようにケアしていくという、幅広い意味を持った前向きなケアです。

漏れを無くすという考えだけでなく、**その方に漏れがあっても快適に暮らして頂ける為には何が出来るか？** その方にとっての「**快適**」とは何か？ その方にとっての一番良いケアを考えてみましょう。

例えば、オムツがあることで、どんな暮らしが実現できるでしょうか？

- ・オムツがあることで、自分で排泄の処理ができる。
- ・オムツがあることで、夜間ぐっすり眠ることが出来る。
- ・オムツがあることで、漏れずに安心して日常生活を送ることができる。

普段漏れない為に使用しているオムツも、その方の「**快適な生活の実現**」の視点で見ると、皆さんができること、ケア方法はたくさん出てくると思います。オムツを必要としない方もいらっしゃるかもしれませんが、ぜひ、皆さんにはコンチネンスケアの幅広い意味を知って頂いた上で、その方にとっての「**快適な生活の実現**」を目指して頂ければ幸いです！！



## 言うは易く行うは難し～実父の尿路管理を行って～5号車



今年の冬はコロナの第6波に加え、インフルエンザの大流行も危惧され、まだまだ感染対策に気が抜けない状況が続きそうです。

私ごとですが9月末に実父（元泌尿器科医）を亡くしました。今回は父の自宅での尿路管理の経験をお話しします。ちなみに私は同居はしておらず同居人の一人は看護師さんでした。これまでこのコラムで私は『安易なオムツ、カテーテルの使用は廃用症候群を招く！！』と泌尿器科的治療と排尿動作のリハビリによる自排尿の回復を目指すように啓蒙してきましたが、実際はかなりハードルが高いことを実感しました。

父は昨年8月に突然尿閉となり前立腺肥大を指摘され、また癌も疑われました。尿路管理は本人が泌尿器科医であったことから間歇的自己導尿が検討されましたが認知症もありカテーテル留置とし、内服治療を併用しました。1ヶ月後に心筋梗塞を起こし、抗血栓剤（いわゆる血をサラサラにする薬）の内服も開始されました。経過中何度かカテーテル抜去を試みましたが自排尿は回復せず、また心筋梗塞後で外科的治療も困難であることから留置を継続することとしました。泌尿器科医の私は長期尿道留置は尿道合併症を引き起こすと考え膀胱ろう（下腹部から膀胱に直接カテーテルを入れる）造設を勧めましたが本人、他の家族ともに反対し尿道留置のままとしました。正月、米寿のお祝い行事などを順調にこなしましたが、やはりカテーテル留置により体動が少なくなり、徐々に体は弱ってきました。5月にはほとんど自宅に居たにもかかわらずコロナに感染（同居人のコロナ感染は陰性）し3週間入院。なんとか自宅に戻りましたが、さらに体力は低下し通院は困難となり私がカテーテル交換を行うことになりました。父は私が交換することに際し「立派な泌尿器科医になったな」と喜んでくれました。最後の親孝行でした。

今回1年強尿道留置カテーテルによる尿路管理を行いました。自宅ではほとんどトラブルはありませんでした。危惧された尿道合併症は起こらず、むしろ入院中の方がせん妄でカテーテルを引っ張ったり、自己抜去し血尿になったりなどトラブルがありました。

今回のことでわかったのですがカテーテル抜去を目指すことは大事ですが、抜去困難の時は全身状態が落ち着いていればカテーテル留置のままできるだけ早く自宅あるいは慣れ親しんだ施設の戻るのが良さそうということ。カテーテル留置に対し心配はあるかもしれませんが慣れ親しんだ環境に戻す方が精神的に安定しトラブルは少なく、メリットが大きいと思います。もちろん自宅、施設退院に際し皆さんの家族に泌尿器科医、看護師がいるわけではないので訪問看護の導入などは検討されます。以上今回は私の経験を書かせていただきました。皆様の今後の尿路管理の参考になれば幸いです。Uro tetu 作

### 排泄ケア、一緒に学びませんか？

コンチネンス協会北海道支部は、「全ての人気が持ちよく排泄のできる社会づくり」を目指しています。排泄は生まれてから死ぬまで全ての人にある行為でありながら、人がもっとも触れられたくない部分だと思います。だからこそ、尊厳を守るケアが求められます。興味のある方、一緒に学びませんか？

また、皆さんの施設での成功事例や、ケアについての課題、気になることあれば、1人で悩まずご相談ください！

E-mail: [continence.hokkaido@gmail.com](mailto:continence.hokkaido@gmail.com)

HP (<http://continence.jp/>)にセミナーの案内、情報等更新しております。

